

(31) にんじん

ア 各病害虫の防除

乾腐病(フザリウム属菌によるしみ)

黒葉枯病

黒斑病

しみ腐病(ピシウム菌によるしみ)

根腐病(リゾクトニア菌によるしみ)

斑点病

紫紋羽病

軟腐病

アブラムシ類

ネキリムシ類

ハスモンヨトウ

ハモグリバエ類

ヨトウムシ(ヨトウガ)

ヒョウタンゾウムシ類

センチュウ類

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

乾腐病(フザリウム属菌によるしみ)

(耕種的・物理的防除)

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良くする。
- 3 ほ場に発病株を残さない。
- 4 抵抗性品種を選ぶ。

※12月は種では、TCH-711は比較的強い。

※秋冬どりで、ベーター441、TCH-711が強い。

※激発ほ場では土壌消毒のみでは防除が困難であるため、は種時期を12月から2月にずらし、併せて感受性の低い品種を用いる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌消毒を行う([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

黒葉枯病

(予防に関する措置)

- 1 健全な種子を使用する。
- 2 連作を避ける。
- 3 多湿とならないよう、ほ場の排水を良好に保つ。
- 4 肥料切れにならないよう、適正な施肥管理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を7～10日おきに2～3回散布する。

黒斑病

(耕種的・物理的防除)

- 1 肥料切れさせない。

しみ腐病(ピシウム菌によるしみ)

(耕種的・物理的防除)

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良くする。
- 3 梅雨後期に多発しやすいので、収穫時期を遅らせない。
- 4 ほ場内に発病株を残さない。

※ベーター441は強い。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌消毒を行う([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 播種前に薬剤を全面土壌混和する。

根腐病(リゾクトニア菌によるしみ)

(耕種的・物理的防除)

- 1 連作を避ける。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 播種前に薬剤を全面土壌混和する。

斑点病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を7～10日おきに2～3回散布する。

紫紋羽病

- ・収穫時に発病箇所を目印をしておき、土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

軟腐病

- ・土壌線虫([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)や土壌害虫を防除しておく。

(耕種的・物理的防除)

- 1 多発畑には連作しない。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤は予防的に散布する。
- 2 発病前から薬剤を予防的に散布する。

アブラムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 気門封鎖剤を施用する。
- 2 薬剤を散布する。

ネキリムシ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を株元散布する。
- 2 薬剤を全面土壌混和又は作条土壌混和する。

ハスモンヨトウ

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を施用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生初期のうちに、薬剤を散布する。

ハモグリバエ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 は種時に薬剤を播溝土壌混和する。
- 2 発生初期に薬剤を散布する。

ヨトウムシ(ヨトウガ)

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫 ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に 薬剤散布等を実施する。
- 3 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【ヨトウムシ】](#)・[【ヨトウガ】](#)

- 1 交信かく乱剤を施用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生初期に薬剤を散布する。

ヒョウタンゾウムシ類

(耕種的・物理的防除)

- 1 成虫を捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

薬剤

- 1 薬剤を散布又は株元散布する。
- 2 トビイロヒョウタンゾウムシには、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤を株元かん注する。

センチュウ類

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)